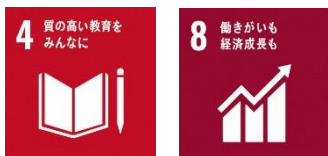


施策 3 - 1 子ども教育の推進

資料 No.7-1

<対応する主な SDGs>



<基本方針>

- 学校、家庭、地域が連携・協働し、地域資源を活かして教育力を向上することにより、子どもたちが自立的に生き、社会の形成に参画するために求められる資質・能力と郷土愛を育みます。あわせて、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実、教育 DX、こどもの意見表明・参画、ウェルビーイングの向上を重視し、誰一人取り残されない学びの保障を推進します。

<現状と課題>

- ここ数年の各種学力調査の結果は、小・中学校共に全国平均を下回っている状況です。また、学校間や教科間、学年間での差が見られます。体力面では、小・中学校ともおおむね良好な状況です。今後は、個別最適な学び・協働的な学びの充実を図り、学力全体を底上げしていく必要があります。加えて、1人1台端末を日常的・効果的に活用し、探究的な学び、情報活用能力、生成 AI 等を含むデジタルリテラシーを発達段階に応じて育成する必要があります。
- 保育・幼児教育ならびに学校教育では、子どもたちが将来の夢や目標を持ち、主体的に進路を切り拓く力を育むことを目指しています。幼保小の架け橋プログラムにより幼児教育施設と小学校が連携して主体性や探究心の基礎を養い、年長児から小中学校へとキャリア・パスポートの取組を継続しています。中学校では課題解決型職場体験を通じて、キャリアプランニング能力の形成に取り組んでいます。こうした取組により、全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答率は年々上昇傾向にあり、特に中学校で大きな改善が見られます。引き続き、将来への夢や目標を持てる子どもの育成に取り組む必要があります。
- 家庭においては、スマートフォンの長時間利用などのメディアコントロールに課題があります。一方で、地域行事や地域の人と関わる活動への参加意識は高く、佐渡学等地域素材を活かした学習の成果が出ています。子どもたちを取り巻く環境が複雑化・困難化するなかでは、今後も学校・家庭・地域が一体となった取組を進めていく必要があります。

<関連計画等>

- 佐渡市教育振興基本計画

< 施策の展開 >

1. 学ぶ意欲を高め確かな学力等を育成する教育の推進

主な取り組み	■学力等に関する各種調査の結果分析を確実に実施し、市及び各小・中学校の課題を明らかにするとともに、課題解決を図ります。分析結果を学校改善計画に反映し、学力、学習意欲、自己肯定感、授業理解度、端末活用状況等を組み合わせた継続的な検証を行います。 ■ICT 機器を効果的に活用し、個別最適な学び・協働的な学びとなる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ります。あわせて、1人1台端末の活用、ネットワーク環境整備、校務DX、教職員研修を一体的に推進し、授業及び校務におけるデジタル活用の定着を図ります。		
主な事業	標準学力検査 NRT、ICT 教育に係る研修会		
目標値	成果指標	現況値 (R7)	目標値 (R13)
	標準学力検査 NRT の偏差値	小学校 49.6% 中学校 49.3%	小学校 50.0% 中学校 50.0%
	授業で1人1台端末を「ほぼ毎日」「週3回以上」活用している割合	小学校 63.0% 中学校 77.1%	小学校 80.0% 中学校 80.0%

2. 郷土愛を軸にしたキャリア教育の推進

主な取り組み	■本市の学校教育における「キャリア教育グランドデザイン」に基づき、幼児期から高等学校まで発達段階に応じたキャリア教育を実施します。 ■小学校では、地域をフィールドとした体験活動を通し、郷土への誇りと愛着に向けて取り組みます。 ■中学校では、職場体験活動を充実させ、課題対応能力やキャリアプランニング能力の形成に向けて取り組みます。		
主な事業	課題解決型職場体験		
目標値	成果指標	現況値 (R7)	目標値 (R13)
	将来の夢や目標をもっている児童・生徒の割合	小学校 79.9% 中学校 64.1%	小学校 85.0% 中学校 70.0%

3. 家庭・地域の教育力の充実

主な取り組み	■ 学校運営協議会と地域学校協働本部を一体的に推進します。 ■ 地域資源を活かしたよりよい学びを推進します。		
主な事業	学校運営協議会事業		
目標値	成果指標	現況値（R7）	目標値（R13）
	コミュニティスクール等の取組により学校と地域・保護者との相互理解が深まったと回答した学校の割合	100.0%	100.0%

<役割分担や協力の考え方>

市民・団体等	事業者等	行政
■ 子どもたちを地域全体で見守り、育てましょう。 ■ 地域学校協働活動や地域資源活用に協力しましょう。	■ 職場体験活動の受入れに協力しましょう。 ■ 見学学習等に協力しましょう。	■ 市民・事業者等への理解と協力が得られるよう取り組みます。

【参考情報】 施策 3- 1 子ども教育の推進

■前期計画 KPI

	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
標準学力検査 NRT で偏差値 50 以上の教科の割合	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
	84.1%	90.0%	70.5%	59.0%	61.4%	54.5%
	中学校	中学校	中学校	中学校	中学校	中学校
	61.5%	80.0%	40.0%	33.8%	41.5%	36.7%
取組内容と取組結果(R7)	指導主事が計画的に全ての小・中学校へ訪問し、授業改善・学力向上の指導を行った。また、若手教員を対象とした「授業・学級づくり研修」を通して、授業支援や授業づくりの土台となる学級づくりの支援を年間を通じて継続的に行った。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	数値としては小中ともに下降した。学校・学年によって学力差が大きい現状がある。市全体の平均偏差値で見ると小学校は R 2 以降、下降傾向である。中学校は R 5 以降、上昇傾向にある。					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	若手教員対象の伴走型支援を継続していく。また、小学校算数、中学校英語など、佐渡市の学力課題に対応する研修の充実を図っていく。					
	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
自己肯定感の肯定的評価率	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
	82.6%	85.0%	82.4%	87.7%	85.6%	90.9%
	中学校	中学校	中学校	中学校	中学校	中学校
	71.8%	75.0%	78.8%	79.1%	79.8%	83.7%
取組内容と取組結果(R7)	前年度に引き続き、佐渡市全体として、学校評価に自己肯定感を高める取組を設定し、各校で重点的に取り組みを進めた。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	小学校で 9 割、中学校で 8 割の児童生徒が自己肯定感に関して、肯定的な評価をしている。R3 以降、数値の上昇傾向が続いている。佐渡市全体として重点事項を決め、児童生徒の発達段階に合わせた各学校の取組の結果、自己肯定感が高まっている。					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	学級経営の充実を図るため、総合教育センター主催で全体研修及び伴走型個別研修を継続して実施するとともに、各学校の取組について進捗状況を適宜把握し、指導助言を行っていく。					
学校運営協議会で話された課題解決に向けた地域学校協働活動の実施率	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	28.5%	90.0%	71.4%	91.4%	87.5%	100%
取組内容と取組結果(R7)	地域学校協働活動との一体的推進に向け、社会教育課と連携し研修会を実施。CS ポートフォリオを全協議会に導入し、内 5 協議会については熟議の支援を行った。CS に対する意識を高めるとともに、自協議会の強みや課題を知り、学校運営協議会での熟議が深まるよう推進した。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	各運営協議会で協議された内容が例年とほぼ同様であることが課題であったが、CS ポートフォリオを導入したことで、「目指す子どもの姿」や地域の教育課題を視覚的に共有・確認する仕組みが構築された。単なる現状報告にとどまらず、「地域として何ができるか」という当事者意識に基づいた熟議へと移行している。					

今後の方針と R8 取組内容（予定）	全学校運営協議会において CS ポートフォリオの実施を継続し、運用定着と活用の向上を図る。CS ポートフォリオに特化した研修の実施、5 協議会への熟議の支援を引き続き行い、CS に対する意識を高めるとともに、地域・学校・家庭が一体となり、当事者意識に基づいた熟議が進むよう推進していく。
--------------------	---

■市民アンケート結果

小中学生の学力の向上	今後の重要度 (重要、やや重要の合計)		現状の満足度 (満足、やや満足の合計)	
	R2	R8	R2	R8
	66.9%	65.6%	15.0%	15.6%

■前期計画からの主な見直し内容

- 施策の展開 1 について、前期計画では、「達成教科数/全実施教科数×100」により目標値としてきたが、小規模校では児童生徒数が少なく、個々の学力の状況が達成率に大きく影響を与えるため、後期計画では佐渡市全体の学力を継続的に把握するため「佐渡市全体の平均偏差値」とする。また、NRT は学習成果を示す指標である一方で、学力向上に向けた教育活動の充実度までは把握できない。このため、1 人 1 台端末の活用割合を指標に追加し、ICT を活用した学びの推進状況を測定することで、学力向上に向けた取組の成果の両面から施策を評価する。
- 施策の展開 2 について、前期計画の「自己肯定感の肯定的評価率」は、児童生徒の内面的な資質を測る指標だが、キャリア教育の成果を直接的に把握しにくい面がある。本施策では、幼保小の架け橋プログラムやキャリア・パスポート、課題解決型職場体験など、発達段階に応じたキャリア教育を推進していることから、その成果を測定できる「将来の夢や目標をもっている児童・生徒の割合」に見直す。
- 施策の展開 3 について、活動の実施状況を把握する指標から、コミュニティスクールの目的である学校・家庭（保護者）・地域の連携・協働の深化を把握する成果指標へ見直す。

施策 3 - 2 学校教育環境の整備

資料 No.7-1

<対応する主な SDGs>



<基本方針>

- 児童生徒が安心して学校生活を送り、良好な教育環境のもとで等しく学ぶことができるよう、いじめ・不登校等への相談支援体制の充実、安全で持続可能な学校施設の維持管理、学校再編を踏まえた教育環境の確保、大学や研究機関等との連携による学習機会の充実を一体的に進めます。

<現状と課題>

- 「佐渡市いじめ防止基本方針」に基づき、各学校において「学校いじめ防止基本方針」を策定し、いじめの未然防止、早期発見、即時対応に努めています。各学校では、いじめを積極的に認知し、組織的な即時対応がなされています。新規不登校児童生徒数は令和 6 年度まで増加傾向にありましたが、令和 7 年度は減少に転じています。しかし、不登校児童生徒は依然として、一定数存在しており、学校・家庭・関係機関が連携した継続的な支援が必要です。そのため、引き続き子どもたちの不安に十分に寄り添っていく体制づくりが必要となっています。
- 令和 4 年度に策定した「佐渡市小学校・中学校再編統合計画」では、令和 4 年から令和 8 年までを前期、令和 9 年度から令和 13 年度までを後期と位置づけ、学校再編を進めています。今後、後期計画を進めるにあたっては、計画策定当時の見込みを上回る出生数の減少が進んでいることを踏まえ、計画を見直す必要があります。
- 児童生徒の安全・安心な学校環境を整備するため、築年数が経過して老朽化が進む施設は、令和 2 年度から令和 11 年度までを計画期間とする「佐渡市学校施設長寿命化計画」に基づいた長寿命化改修を計画的に実施するとともに、各学校において行う日常点検により、異常や不具合を早期に確認し、施設の維持・保全に努めています。また、児童生徒の学校環境の充実を図るため、空調が未設置の教室への整備、トイレの洋式化にも取り組む必要があります。
- 小・中学校等と大学や研究機関が連携し、大学教授による授業等を通して、市内教諭の授業改善の研修とするなど、効果を上げています。今後も、各学校への働きかけやオンライン機器の活用を含め、より積極的な実施を進めるとともに、大学関係者や大学生等を積極的に招致し、交流する教育活動を広げていく必要があります。

< 関連計画等 >

■佐渡市教育大綱及び佐渡市教育振興基本計画

■佐渡市学校施設長寿命化計画

< 施策の展開 >

1. 安心して学べる相談・支援体制の充実

主な取り組み	■児童生徒や保護者の信頼に応える、いじめ解消を含めた校内相談・支援体制の充実と、教職員の資質・指導力の向上を図ります。また、児童生徒の状況を定期的に把握し、学校内外の相談先、教育支援センター等の関係機関を組み合わせた多層的な支援体制を整備します。 ■子ども若者相談センターと連携した重点校支援など、関係機関との連携により、困り感をもつ子どもへの支援を進めます。		
主な事業	教育支援センターの整備		
目標値	成果指標	現況値 (R7)	目標値 (R13)
	学校に行くことが楽しい と思う児童生徒の割合	小学校 83.5% 中学校 80.1%	小学校 90% 中学校 85%

2. 安全で持続可能な学校施設の維持管理

主な取り組み	■児童生徒の安全を確保するため、学校の日常点検及び専門業者による定期点検により予防保全に努め、不具合がある場合は速やかに修繕を行います。 ■施設の長寿命化、トイレの洋式化、空調設備の整備は、小学校・中学校の再編統合のスケジュールを加味しながら効率的かつ計画的に進めます。		
主な事業	小中学校 長寿命化整備事業		
目標値	成果指標	現況値 (R7)	目標値 (R13)
	学校の設備・機能における市民の満足度	19.1%	25.0%

3. 高等教育・研究機関等との連携強化

主な取り組み	■大学や研究機関と連携し、関連施設や職員を活用した教育活動、オンラインを活用した授業・研修、専門的な学習機会の充実を図ります。 ■グローバルな視点を育むため、高校生の海外留学支援など、学校段階に応じた多様な学びの機会を広げます。		
主な事業	学習意欲向上プロジェクト、大学等遠隔研修の取組		
目標値	成果指標	現況値 (R7)	目標値 (R13)
	大学・研究機関等と連携した教育活動を実施している小・中学校の割合	74.0%	90.0%

<役割分担や協力の考え方>

市民・団体等	事業者等	行 政
■互いに連携し助け合い、地域全体で子どもを育てられるよう取り組みましょう。	■学校との協働により、よりよい学びの場を提供できるよう取り組みましょう。	■学校と地域団体、大学など個々の様々な取組を共有し、マッチングできる環境を整えます。

【参考情報】 施策 3-2 学校教育環境の整備

■ 前期計画 KPI

	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
学校に行くことが楽しい と思う割合	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
	84.5%	90%	86.1%	87.7%	86.2%	83.5%
	中学校	中学校	中学校	中学校	中学校	中学校
	79.0%	85%	87.7%	82.5%	82.4%	80.1%
取組内容と取組結果(R7)	小学校担任による実践発表や大学から招聘した講師による講演会などを行い、学級経営に関する研修を実施した。研修を基に、各学校において学級経営の充実を図っている。また、よりよい人間関係の構築を推進した。					
KPI 実績値に対する評価 と分析(R7)	小中学校ともに 8 割以上の児童生徒が「学校が楽しい」と感じている。一方、2 割弱の児童生徒が否定的に回答しており、そういった児童生徒への働きかけが一層求められる。					
今後の方針と R8 取組内 容 (予定)	学級経営の充実を図るため、全体研修及び伴走型個別研修を継続して実施する。また、各学校においては、学級活動や学校行事等の取組をととして、「いじめ・不登校を生まない学校づくり」に向けた児童生徒の自己肯定感を高める取組の充実を図る。					
佐渡市学校施設長寿命化 計画に基づく改修の件数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	0 件	11 件	0 件	1 件	2 件	1 件
取組内容と取組結果(R7)	佐和田中学校大規模改修工事が完了					
KPI 実績値に対する評価 と分析(R7)	工期の延長もなく予定どおり工事を完成させることができた。					
今後の方針と R8 取組内 容 (予定)	佐和田中学校体育館の改修工事と河原田小学校耐力度調査の実施					
大学や研究機関の関連施 設や職員を活用した教育 活動を実施している小・ 中学校の割合	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	65.7%	80.0%	45.7%	82.9%	68.6%	74.0%
取組内容と取組結果(R7)	各学校で研修支援事業を活用し、大学付属校等への先進校視察や大学教員等の招聘・研修会開催を行うとともに、市教委としても、大学連携（脱炭素プロジェクトとサイエンスプロジェクト、地域未来塾等）の事業を実施した。					
KPI 実績値に対する評価 と分析(R7)	各学校の課題・ニーズに応じて先進校視察や研修会講師の招聘を行っており、大学に限らず多様な外部人材の活用が図られている。そのため、目標値には届かなかったが、R7 年度は前年度よりも数値が上昇した。					
今後の方針と R8 取組内 容 (予定)	佐渡市の大きな課題である学力向上やいじめ・不登校を生まない教育の解決に向けて、引き続き、研修支援事業の活用を促進していく。					

■市民アンケート結果

	今後の重要度 (重要、やや重要の合計)		現状の満足度 (満足、やや満足の合計)	
	R2	R8	R2	R8
学校の設備・機能の充実	61.2%	62.6%	21.6%	19.0%
小中学校の統合による適正配置	56.0%	63.1%	15.1%	21.2%

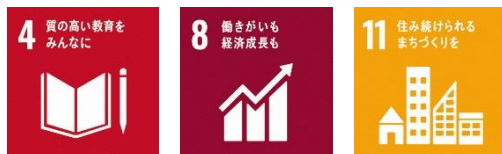
■前期計画からの主な見直し内容

- 施策の展開2について、指標が大規模改修件数では、単純に「佐渡市学校施設長寿命化計画」を遂行するものとなり、予算確保や学校再編統合などの外的要因が影響することから、指標として適さないため、市民の満足度に変更する。

施策 3 - 3 生涯学習の推進

資料 No.7-1

<対応する主な SDGs>



<基本方針>

■生涯にわたり学び活躍できる、人づくり、地域づくり、豊かさづくりを実現するために、「トキめき」のある充実した生涯学習活動を推進します。

<現状と課題>

- 令和 3 年 9 月の第 2 次佐渡市生涯学習推進計画策定時に行った調査では、市民が「今後行いたいと考える学習内容」や「学習するとしたら利用したいと考える学習方法」は多岐にわたっていることが分かります。また、約 87 %の市民が今後文化芸術活動を行いたいと考えていることが分かります。しかしながら、実際に学習をした割合を見ると、その比率は 44 %程度であり、市民の学習意欲が実際の学習活動にはつながっていないことが分かります。そのため、市民が求める学習要求を的確に把握するとともに、学習機会の提供や学習環境の整備を行う必要があると考えます。
- 価値観や生活様式の多様化、地域における人口減少、核家族化や高齢化による地域社会の連帯意識の希薄化により、地域の教育力や活力の低下が叫ばれています。調査結果を見ても、学習で身に付けた知識、技能や経験を地域で活かそうという考えは消極的であることがうかがえます。しかし、そのような中でも学習で身に付けた知識・技術や経験を地域・まちづくりに役立てていきたいと考える市民の方が 26.2 おり、また、地域のお祭りや行事に積極的に参加している市民の方が 38.3% います。さらに地域には公民館や図書館等の社会教育施設があり、NPO 等の民間団体の方など豊富な経験と優れた知識や技能を持った人材もいます。そこで、地域の大人が連携を図り、これらを地域の貴重な教育資源として活用し、地域の教育力を向上させる必要があります。
- 佐渡市には、世界文化遺産「佐渡の金山」をはじめ、鬼太鼓や能などの特色ある文化、トキを代表する豊かな自然環境、地球の歴史が数多く刻まれている佐渡ジオパークなど、佐渡固有の自然・歴史・文化が数多く残されています。また、古くから多様な文化を育んできた佐渡は芸術活動も盛んであり、絵画、版画などの美術作品や舞踊といった伝統芸能など様々な活動が継承されています。市民の文化・芸術活動の意欲を消さないためにも、市民一人ひとりが創造力を発揮できる環境を整え、佐渡のもつ風土・歴史・社会・芸術・文化的に関する活動を支援して

いく必要があります。

<関連計画等>

■佐渡市生涯学習推進計画

< 施策の展開 >

1. 学習社会の構築

主な取り組み	■幅広い学習機会の提供と充実、ICT を活用した講座等を開設するとともに、多様化・複雑化・高度化する課題に対応する教育人材を育成します。 ■「学びの場」が子どもから高齢者まで多くの人々へ行き渡るよう、学習関連施設の有効活用や学習支援・相談体制の整備に取り組みます。		
主な事業	市民大学講座、放送大学提供システムの活用・放送大学公開講演会の実施、人材バンクの整備、生涯学習関連施設の活用、学校体育館開放事業		
目標値	成果指標	現況値 (R7)	目標値 (R13)
	生涯学習の場の確保における市民の満足度	19.5%	30.0%

2. 人づくり、地域づくりの推進

主な取り組み	■子どもの豊かな人間性や自ら学び自ら考える力を育むため、自然体験活動や異年齢集団による活動・交流などの子どもの体験活動を推進します。 ■公民館や分館を核にした様々な地域活動や多様な学びに取り組むグループ活動を推進します。 ■地域教育にもつながる地域クラブ活動では、佐渡独自の「エンジョイ型」と「スキップ型」を充実させ、子どもたちに多様な活動を提供してまいります。		
主な事業	青少年健全育成活動（サマーキャンプ等）、放課後子ども教室、子ども会連絡協議会活動、公民館講座、自主講座、サークル活動発表会、地域クラブ活動		
目標値	成果指標	現況値 (R7)	目標値 (R13)
	今後、市民と行政が協働でまちづくりを進めるにあたり、地域や住民ができる「青少年の健全育成」の割合	5.3%	10.0%

3. 心と身体と人生の充実

主な取り組み	■佐渡の豊かな伝統文化・芸術を確かに継承すると共に、心身の健康増進を積極的に支援し、思いやりを満たした心豊かな地域づくり を実現するためにも芸術・文化などに関わる教育・生涯学習のさらなる充実を図ります。		
主な事業	美術展覧会・公民館文化祭の実施、芸能発表会の実施、芸術・文化講座の実施、生涯学習人材バンクへの登録推進		
目標値	成果指標	現況値（R7）	目標値（R13）
	今後、市民と行政が協働でまちづくりを進めるにあたり、地域や住民ができる「歴史・文化の保全・継承」の割合	12.9%	20.0%
	歴史文化・芸術の振興における市民の満足度	26.2%	30.0%

<役割分担や協力の考え方>

市民・団体等	事業者等	行政
■率先して分館活動や運動会等に参加し、多世代との交流や健康増進に努めましょう。	■事業者が積極的に文化活動に参加できる環境を整えましょう。	■総合的な学びの場の創出や、その取組に参画する団体や指導者への支援を行います。

【参考情報】 施策 3-3 生涯学習の推進

■ 前期計画 KPI

生涯学習事業参加者数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	5,387 人	13,000 人	12,466 人	9,339 人	11,578 人	13,563 人
取組内容と取組結果(R7)	令和 6 年度実施したアンケートを元に、教室の内容を工夫したり、SNS 等での周知を徹底したことで参加者増加につながった。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	令和 6 年度実施したアンケートを元に、教室の内容を工夫したり、SNS 等での周知を徹底したことで参加者増加につながった。					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	今後もアンケートを実施し、参加者のニーズに沿った教室内容を工夫して行く。					
青少年健全育成事業参加者数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	7,580 人	14,000 人	7,375 人	6,740 人	6,045 人	6,279 人
取組内容と取組結果(R7)	年度当初に佐渡市青少年健全育成市民会議を開催し、10 地区の今年度事業の計画について意見を交換する。 その結果、周知方法 (SNS を利用) の徹底・工夫をしたことにより、各地区の青少年事業に関しては参加者増につながった。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	年度当初に佐渡市青少年健全育成市民会議を開催し、10 地区の今年度事業の計画について意見を交換する。 その結果、周知方法 (SNS を利用) の徹底・工夫をしたことにより、各地区の青少年事業に関しては参加者増につながった。					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	参加者にアンケートを実施し、参加者のニーズに沿った教室内容の計画をする。 また周知の徹底も行う。					
市展出品点数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	237 点	250 点	1,047 点	1,247 点	1124 点	1,108 点
取組内容と取組結果(R7)	年度当初に実行委員会を開催し、少しでも出品数が増えるよう、実行委員と打ち合わせをした。 出品数の増には繋がらなかったが昨年度よりも新規で出品いただいた方が増えた。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	児童生徒数の減少、一般の部の作品出品者の高齢化等により、出品数が減少した。 新規出品者もいたが、以前までの出品者が減っているため、長く出品いただけるよう、芸術に触れる機会を提供する。					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	公民館講座等で芸術にふれる機会を提供し、新規制作者を取り込むよう工夫を行う。併せて新規の方から出品してもらえよう、作品募集の周知を徹底する。ジュニア部門に関しても、学校への作品募集依頼も早めに行うようにする。					

生涯学習人材バンク登録者数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	16 人	50 人	28 人	28 人	28 人	55 人
取組内容と取組結果(R7)	年間を通し、登録者の募集をおこなった結果、新規登録者の増加につながった。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	既に登録済みの講師から声をかけていただき、新規登録者の増加につながった。					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	今後も登録済みの講師から、新たに登録いただけそうな方への声掛け等を行ってもらい登録に繋げる。併せて、SNS を活用した、周知も行い、登録者増加につなげたい。					

■市民アンケート結果

生涯学習の場の確保	今後の重要度 (重要、やや重要の合計)		現状の満足度 (満足、やや満足の合計)	
	R2	R8	R2	R8
	50.5%	52.5%	16.4%	19.5%

■前期計画からの主な見直し内容

● 基本方針、現状と課題について、「第2次佐渡市生涯学習推進計画」の基本理念にあわせて修正。 ● 施策の展開1～3について、成果指標をアウトプット指標（事業への参加者数や展覧会への出品点数）からアウトカム指標（市民の満足度など）に変更。

施策 3 - 4 スポーツの推進

資料 No.7-1

<対応する主な SDGs>



<基本方針>

- 市民の誰もがそれぞれの体力、技術、年齢、趣味など目的に応じて、週 1 回以上、気軽にスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指します。

<現状と課題>

- 本市の子どもの肥満の割合は、幼児・小・中・高校生全ての年代において、県平均を上回っています。また、親子で一緒に遊ぶことがほとんどない家族が 40%を超えており、親世代の運動不足との関連もあると予測されることから、親子で遊ぶ機会の創出が求められます。。なお、令和 6 年に実施した運動能力調査の結果によると、本市の児童生徒は非常に優れた運動能力を示す一方で、肥満の割合が高いことから、スポーツに親しむ層と運動習慣が全くない層との二極化が進んでいます。
- 令和 7 年に実施した市民意識調査の結果、本市の週 1 回以上のスポーツ実施率は 35.0%で、平成 30 年調査の 21.5%から一定程度の上昇が見られた一方で、県平均の 50.7%や国平均の 52.5%と比較すると依然として低い水準にあります。また、地区間の格差が生じており、地域によって運動意識や環境に大きな違いが生じています。市民がスポーツに参加する動機付けとして、ライフスタイル、志向、目的に応じたスポーツをする機会を充実させる必要があります。
- 週 1 回以上のスポーツ実施率が低いことから、誰もが気軽にスポーツに親しむことができるよう、地区教育事務所・地区スポーツ（体育）協会・公民館活動の連携と、指導者育成による幅広い事業運営をすることで市民参加を促す必要があります。

<関連計画等>

- 佐渡市スポーツ推進計画

<施策の展開>

1. 「育てる」スポーツの推進

主な取り組み	■親子や家族で取り組める体験型スポーツや体力向上・肥満予防につながる運動を推進するとともに、幼稚園、保育園、小・中学校等と連携し、幼少期からの運動習慣の定着を図ります。		
主な事業	幼児期の身体活動の推進、学童期のスポーツ活動の推進、中学生の部活動と社会スポーツの連携		
目標値	成果指標	現況値（R7）	目標値（R13）
	親子スポーツ教室参加数	799 人	1,000 人
	参加者の満足度	—	80.0%

2. 「健康」スポーツの推進

主な取り組み	■企業等と連携しながら働き盛り世代の運動習慣の定着を図ることで、市民の健康増進と健康寿命の延伸につなげ「健康寿命日本一」の実現を目指します。		
主な事業	青年・成人期のスポーツ推進、高齢者のスポーツ推進、障がい者それぞれに応じた生涯にわたるスポーツ推進、公民館活動におけるスポーツ推進、勤労者の健康増進のための企業の応援		
目標値	成果指標	現況値（R7）	目標値（R13）
	健康・スポーツ教室・ウォーキング教室の参加者数	1,057 人	1,300 人
	参加者の満足度	—	80.0%

3. 「支える」スポーツの推進

主な取り組み	■市民スポーツの振興に向けて、子どもから高齢者、障がい者まで、各年齢期に応じた指導の充実を図り、誰もが気軽に安心して利用できる拠点の充実を図ります。 ■市民一人ひとりの年齢や体力、目的に応じた適切な指導を行い、安全で継続的なスポーツ活動を支えるため、指導者の育成と資質の向上を図ります。 ■利用案内や情報発信の充実やキャッシュレス決済の導入など、誰もが利用しやすい体育施設の運営環境の充実を図ります。		
主な事業	コミュニティスポーツ推進組織の育成、各種教室の実施、スポーツ指導者の育成、スポーツ人材バンクへの登録推進、利用しやすい施設運営		
目標値	成果指標	現況値（R7）	目標値（R13）
	スポーツ人材バンク登録者数	31 人	60 人

<役割分担や協力の考え方>

市民・団体等	事業者等	行 政
■健康を維持するうえで、体を動かしたり、スポーツを行ったりすることの必要性を認識し、健康づくりやスポーツ活動の習慣化に向けて取り組みましょう。	■事業所内でスポーツ指導員による健康運動の指導や、市内スポーツ施設の利用料の負担など、勤労者の健康増進を図りましょう。	■市民がスポーツをする機会の充実と安心して利用できる拠点の充実を図ります。

【参考情報】 施策 3-4 スポーツの推進

■ 前期計画 KPI

親子スポーツ教室参加数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	113 人	200 人	983 人	979 人	1,061 人	799 人
取組内容と取組結果(R7)	計 57 回開催した。他地区との交流を図るため、新たな取り組みとして 10 地区でそれぞれ開催していたものを東西南北の 4 つの教育事務所単位で開催したが、1 会場あたり参加者は微増で、実績人数は減少した。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	1 回あたりの参加者で見ると 13.6 人から 14.0 人と若干増加した。					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	新しい種目を導入したり、内容を検証して魅力あるメニューを提供することで、参加者増に繋げたい。					
健康・スポーツ教室・ウォーキング教室の参加者数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	1,380 人	1,800 人	1,299 人	1,450 人	1,168 人	1,057 人
取組内容と取組結果(R7)	全 10 地区で計 81 回実施し、参加者は昨年度より 111 人減少した。前年に参加者実績の少ない教室を一部とりやめたため、参加者は減少した。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	1 回あたりの参加者は 11.2 人から 13.0 人と増加した。					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	新しい種目を導入したり、内容を検証して魅力あるメニューを提供することで、参加者増に繋げたい。					
スポーツ人材バンク登録者数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	31 人	60 人	32 人	30 人	31 人	31 人
取組内容と取組結果(R7)	前年度と増減なし。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	制度の周知に努め、登録者数の増加を目指す。					
今後の方針と R8 取組内容 (予定)	各競技団体やジュニアスポーツの指導者等に積極的に案内することと、SNS 活用して広く周知することで、登録者を増やしていきたい。					

■市民アンケート結果

	今後の重要度 (重要、やや重要の合計)		現状の満足度 (満足、やや満足の合計)	
	R2	R8	R2	R8
スポーツの振興	43.3%	49.4%	17.0%	24.9%
健康づくり・保健・医療の充実	77.6%	82.8%	26.2%	28.9%

■前期計画からの主な見直し内容

- 施策の展開 1 及び 2 について、成果指標がアウトプット指標（教室への参加者数）のみであったため、アウトカム指標（参加者の満足度）を追加。
- 施策の展開 2 について、健康寿命日本一を目指して取り組むことを明記。
- 施策の展開 3 について、スポーツ指導者の育成や体育施設の環境づくりを追記。

施策 3 - 5 文化振興の推進

資料 No.7-1

<対応する主な SDGs>



<基本方針>

- 世界文化遺産「佐渡島の金山」をはじめ、史跡、建造物、民俗芸能、博物館資料など、本市が有する、多様な文化財・歴史文化資源を適切に保存・継承するとともに、教育、地域づくり、観光交流等に活用することで、市民が地域に誇りと愛着をもち、未来へ文化を継承する地域づくりを目指します。

<現状と課題>

- 本市には、金銀山に関連する遺跡や寺社等の建造物、町並み、伝統芸能など、多様な文化財や歴史文化資源が全域に分布しており、国・県・市の指定文化財等についても、県内有数の質と件数を誇ります。これらの地域資源を後世へ守り伝えていくためには、適切な保存が必要となります。令和6年7月に「佐渡島の金山」が世界文化遺産に登録されたことを契機として、本市の文化財や歴史文化に対する関心が高まっている一方で、来訪者の増加に対応しながら、文化財の価値を損なわない保存管理、公開活用、景観への配慮、地域住民との調整を一体的に進める必要があります。
- 文化財や伝統芸能は、地域の暮らしや活動と深く結びついて受け継がれてきましたが、人口減少や少子高齢化、価値観の多様化により、維持管理や継承活動を担う人材の確保が難しくなっています。民謡、鬼太鼓、能、人形芝居等をはじめとする地域文化を次世代へ継承していくためには、島内の保存団体や地域だけに負担を委ねるのではなく、島内外の行政、民間事業者、関係団体が連携し、子どもや若者、観光客等が佐渡の文化に触れ、学び、関わる機会を増やしていく必要があります。
- 博物館・資料館及びガイダンス施設等は、本市の歴史や文化を市民や来訪者に分かりやすく伝える重要な拠点です。世界遺産登録後は、文化財を単に「見る」だけでなく、その価値や背景を理解してもらう取組がより重要となっています。展示、講座、出前授業、体験活動、ガイド育成、情報発信等を通じて、本市の文化を学ぶ機会を充実させるとともに、施設の老朽化、資料の保存管理、デジタル化、専門人材の確保などにも計画的に対応していく必要があります。

< 関連計画等 >

- 佐渡市教育振興基本計画
- 佐渡市文化振興ビジョン
- 佐渡市歴史文化基本構想
- 「佐渡島の金山」 包括的保存管理計画
- 佐渡市博物館ビジョン
- 佐渡市歴史的風致維持向上計画
- 佐渡市景観計画

< 施策の展開 >

1. 世界遺産等の地域資源の保存と活用

主な取り組み	■世界文化遺産「佐渡島の金山」の構成資産及び関連する文化財について、保存管理計画等に基づき、適切な保存、整備、維持管理、公開活用を推進します。 ■文化財の保存と地域の暮らし、観光利用、開発行為等との調整を図り、文化財の価値を守りながら、地域資源として活かす取り組みを進めます。 ■市民や来訪者が佐渡の文化財等の価値を正しく理解できるよう、ガイドの育成、解説環境の整備、情報発信、普及啓発の充実を図ります。		
主な事業	世界遺産史跡・建造物保存整備事業、佐渡金銀山ガイダンス施設運営事業、世界遺産普及啓発事業、ガイド育成事業		
目標値	成果指標	現況値（R7）	目標値（R13）
	世界遺産構成資産の整備件数（累計）	1 件	7 件
	相川ふれあいガイドの利用客数	4,100 人	5,700 人

2. 郷土愛の醸成と担い手の育成

主な取り組み	■郷土愛の醸成や地域文化の担い手育成につなげるため、学校、地域、関係団体と連携し、子どもや若者が佐渡の歴史、文化財、伝統芸能、自然、暮らしに触れ、地域への誇りと愛着を育む学習機会を提供します。 ■出前授業、市民講座、地域文化体験ワークショップなどを通じて、文化財や地域文化を学び、伝える人材の育成に取り組めます。 ■民謡、鬼太鼓、能、人形芝居等の伝統芸能や地域文化について、保存団体等と連携し、活動の継続、記録保存、発表機会の確保、次世代への継承を支援します。		
主な事業	世界遺産普及啓発事業、世界遺産を核とした総合的情報発信事業、文化振興事業、博物館・資料館運営事業、ジオパーク推進事業、生物多様性戦略推進事業、文化財管理事業、埋蔵文化財調査保存事業、重要伝統的建造物群保存事業、社会教育事業		
目標値	成果指標	現況値（R7）	目標値（R13）
	出前授業、市民講座等の理解度・満足度	—	80.0%

3. 博物館・資料館等の事業の推進

主な取り組み	■学芸員等の専門知識を活かした学習機会を提供するとともに、子どもから大人まで幅広い世代が佐渡の歴史文化に親しむ機会を創出します。 ■博物館・資料館及びガイダンス施設等を、本市の歴史文化を学び、伝える拠点として活用し、市民や来訪者が分かりやすく学べる展示、講座、体験等の充実に取り組みます。 ■収蔵資料の保存管理、調査研究、記録化、デジタル化を進め、将来にわたって佐渡の歴史文化を継承できる体制づくりに取り組みます。		
主な事業	博物館・資料館運営事業、埋蔵文化財調査保存事業、佐渡金銀山ガイダンス施設運営事業、世界遺産普及啓発事業、文化振興事業		
目標値	成果指標	現況値（R7）	目標値（R13）
	博物館及び資料館等の来館者数	93,357 人	110,000 人

<役割分担や協力の考え方>

市民・団体等	事業者等	行政
■地域の文化財や伝統芸能に関心を持ち、学習活動、保存活動、文化活動に参加しましょう。 ■地域で受け継がれてきた文化を次世代へ伝える担い手として、様々な形で文化活動に参加し、文化を支えていきましょう。	■事業活動や開発行為、観光利用を行う際には、地域の宝である文化財等の保存、景観、地域の暮らしに配慮しましょう。 ■市民の文化活動を理解し、活動を支える力となりましょう。 ■佐渡の文化や歴史を尊重し、来訪者に地域の魅力を正しく伝える取組に協力しましょう。	■文化財の保存管理、調査研究、整備、公開活用を計画的に推進します。 ■市民、保存団体、学校、事業者等と連携し、文化活動の機会の提供、担い手の育成、及び文化の普及啓発を行います。

【参考情報】 施策 3-5 文化振興の推進

■ 前期計画 KPI

世界遺産構成資産の整備 件数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	1 件	8 件	2 件	2 件	3 件	3 件
取組内容と取組結果(R7)	金子勘三郎家牛納屋保存修理工事について、文化財としての保存に必要な工法検討、設計内容の精査、工程調整を行い、工事を継続して実施した。また、大立竪坑櫓及び同捲揚機室の保存修理に向け、櫓背面の法面落石対策工事を令和 6 年度から継続し、将来の本体保存修理に必要な安全対策と施工環境の整備を実施した。					
KPI 実績値に対する評価 と分析(R7)	令和 7 年度は、保存修理に向けた工事・調整を進めたものの、金子勘三郎家牛納屋の保存修理工事は、工法検討や工程調整に時間を要し、年度内の整備完了には至らなかった。このため、世界遺産構成資産等の整備完了件数は前年度から増加せず 3 件にとどまった。R8 目標値 8 件に対して進捗に遅れが生じている。					
今後の方針と R8 取組内 容 (予定)	金子勘三郎家牛納屋保存修理工事について、引き続き工程管理、財源管理及び関係機関との調整を行い、早期完了に向けて取り組む。また、金子勘三郎家の他棟及び大立竪坑櫓・同捲揚機室の保存修理に向け、設計・協議・安全対策を計画的に進める。R8 目標値との乖離を踏まえ、整備対象ごとの進捗状況と年度別工程を再整理し、保存と公開活用の両立を図りながら、計画的な整備件数の積み上げを図る。					
ふれあいガイドの利用客 数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	7,709 人	20,000 人	12,342 人	7,594 人	7,790 人	9,932 人
取組内容と取組結果(R7)	ガイド養成講座を実施し、ガイドの質向上並びに横のつながりをつくることができた。					
KPI 実績値に対する評価 と分析(R7)	利用促進を図ったことで、前年を上回る実績値となった。 特に相川地区では、団体にて前年度利用を上回っており、世界遺産登録後の観光客数増加をガイド利用へとつなげられてきている。					
今後の方針と R8 取組内 容 (予定)	情報発信によるガイド利用数増加にへの取り組みを行いつつ、他課とも連携しながら、ガイド養成に取り組んでいく。					
出前授業、市民講座等の 参加者数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	4,190 人	5,300 人	6,077 人	6,175 人	5680 人	5,831 人
取組内容と取組結果(R7)	参加者の固定化が見られる為、新規講座の企画や SNS を活用した、周知の徹底をしたことにより、参加者増加につながった。					
KPI 実績値に対する評価 と分析(R7)	人口が減少していく中で、参加者を集めるのは大変だが、講座内容の工夫、実施方法の工夫を行ったことにより、参加者増につながった。					
今後の方針と R8 取組内 容 (予定)	アンケートを実施し、時代のニーズや参加者のニーズに沿った内容の講座を計画する。					

博物館及び資料館の来館者数	現況値 (R2)	目標値 (R8)	実績値(R4)	実績値(R5)	実績値(R6)	実績値(R7)
	30,359 人	66,000 人	41,927 人	44,464 人	47,084 人	56,242 人
取組内容と取組結果(R7)	学校への出前事業や館内学習の受入れ、また佐渡の美術工芸や芸能などの特別展示会、太平洋戦争後 80 年の節目に戦争に関する展示を行うことにより入館者数が増加した。					
KPI 実績値に対する評価と分析(R7)	展示の説明会を行ったり、SNS 等で展示会を周知すること等により前年度と比較して入館者数が 20%弱増加した。					
今後の方針と R8 取組内容（予定）	学校や市民向けのプログラムを増やすこと、SNS を活用して展示会等の情報を広く周知して入館者数を増やしたい。					

■市民アンケート結果

	今後の重要度 (重要、やや重要の合計)		現状の満足度 (満足、やや満足の合計)	
	R2	R8	R2	R8
世界遺産「佐渡島の金山」の保存・活用	44.9%	65.6%	22.4%	37.9%
歴史文化・芸術の振興	46.1%	53.6%	17.7%	26.2%

■前期計画からの主な見直し内容

- 施策の展開1について、世界文化遺産「佐渡島の金山」の登録を踏まえ、構成資産及び関連文化財の保存・整備だけでなく、地域の暮らしや観光利用、開発行為等との調整、ガイド育成、解説環境の整備及び情報発信までを一体的に進める内容に見直しを行った。ガイドの成果指標については、世界遺産等の地域に適したガイド（相川ふれあいガイド）のみに変更。
- 施策の展開2について、前期計画では、出前授業や地域文化体験ワークショップ等による学習機会の提供を中心としていたが、後期計画では、学校、地域、関係団体との連携を中心に、子どもや若者の郷土愛の醸成に加え、文化を学び伝える人材の育成、伝統芸能・地域文化の活動継続、記録保存、発表機会の確保及び次世代への継承まで取り組むこととした。成果指標について、前期計画では参加者数を成果指標としていたが、人口減少・少子化の中でも参加機会を維持するとともに、取組の質や学習成果を把握するため、「理解度・満足度」を新たな成果指標として設定（検討中）。
- 施策の展開3について、前期計画の「博物館事業の推進」から、博物館・資料館に加え、ガイダンス施設等も含めた歴史文化の学習・発信拠点として位置付ける内容に見直しを行うとともに、講座や体験機会の提供に加え、収蔵資料の保存管理、調査研究、記録化及びデジタル化を新たに明記した。成果指標については、世界文化遺産登録後の来訪者増加や施設に求められる役割の多様化を踏まえ、対象施設を拡大。